
アダムとイヴの未来

アクア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アダムとイヴの未来

【Nコード】

N2639BA

【作者名】

アキラ

【あらすじ】

『あなたは今から創造主です。』

失樂園しなかった架空世界の未来を描く、SFギャグチックアドベンチャーな物語：になる予定。

地球暦20XX年、創造学校・創世班に通う定と住はアダム霊とイヴ霊を受け継ぐ幼なじみの17歳。

二人は新たな世界を創造するという課題に頭を悩ませていた。

失樂園していない世界

『あなたは今から創造主です。どんな世界をも創り出せます。』

そう言われたら、あなたは果たしてどんな世界を創造しますか？

ここは、あの旧約聖書に登場する楽園 エデン。

但し我々の現実世界とは微妙に異なっている。

創造主は自らの姿に似せて最初の【ヒト】であり男性である『アダム』を創り出した。

そして、一人では淋しいだろうということで彼のパートナーである女性『イヴ』を彼アダムの肋骨より誕生させた。

ここまでは皆さんご存知の通り。問題はこの先にある。

ある時イヴが楽園内を鼻歌を歌いながら歩いていると、いつもはあまり通らない場所に出た。

そこは主に決して近付いてはならないと言われている所で、少し高台になっているその中央部には、『生命の樹』がどっしりとそびえ立っていて、それ自身の果実を撓わに実らせていた。

その様子を間近で見ようと、イヴはその樹に引き寄せられるかのように近付いていった。爽やかな風が木々の葉とイヴのしなやかな髪を揺らす。そして風は樹木に付いた実の甘酸っぱい香りを彼女の鼻

腔に運んだ。

イヴはその果実をしげしげと眺めた。

（食べてはダメと父様（主）に言われたけど、見るだけ…いや触るだけならいいよね）

好奇心に駆られた彼女がその橙色をした果実に触れようと手を伸ばしたまさにその時、

「美味しそうだろ？それは【知恵の実】っていうのさ。」

樹の枝の陰から一匹の蛇が身体をくねらせながらイヴの正面に顔を出した。

「わっ！ビックリしたー…あら？蛇さんじゃない。知恵の実って！？」

突然の蛇の登場に驚愕しつつも、彼女は初めて耳にするその果実がどんなものなのか気になり尋ねた。

「この知恵の実を食べると、すごい知識がついて何でも分かるようになるんだよ。」

蛇はその実について簡潔に説明した後「さあ、試しに一口食べてくらんよ。世界が変わるから！」と彼女に促した。

だが

「いや遠慮しとくわ。だってソレ皮剥くの面倒臭そうだし、何だか酸っぱそうなんだもの！じゃあ私忙しいんでそろそろ帰るわね。」
バイバイ蛇さん」

「ンな、なんですよ！?？」

イヴはあろうことか、蛇の誘惑をバツサリと0・1秒の即答で断ったのだ！

（ちなみにこの世界での知恵の実はリンゴではなくて、何故かミカンだったという。）

こうして蛇＝サタンの魔の誘惑を（結果オーライで）退けたイヴは樂園を追放されることもなく、アダムと仲睦まじく末永く幸せに暮らしたため、その後の人類の歴史がかなり大幅に修正されたとかされなかったとか。。。

創世学校とは

時は流れ、地球暦20XX年。

イヴの想定外な選択により既存世界と掛け離れ、独自の思想の下に霊性の進化を遂げた人類は、国境というくだらない境界線を進化途中の早期の時点で無くしてしまった。

その為、本来であれば体験するであろう二度の世界大戦の歴史を刻むことなく、順調に地球の『位置』を上昇させてきた。（ここでの位置とは次元のようなもの）

この世界の惑星『地球』は、太古より居住を禁じられてきた聖地である孤島『ザポネ』を中心に、自然と科学がベストな割合で融合した平和的『惑星維持プログラム』なるものがきちんと作動している、まさに『理想郷』のような場所なのである。

しかし、宇宙の法則により、大宇宙の中心意思『源意』^{ソース}は常に変化・進化を余儀なくされるため、新たな世界をどんどん産み出しそれを無数の『分魂』に経験してもらわなければならない。

そこで銀河連盟最高司令部の一端を担う地球は『ガイア』^{ガイア}創造する者達』を養成すべく『創造学校』を設立したのであった。

入学資格は『創造したいという意味』そののみ。

性別・年齢は勿論、出身星・種族すら ヒューマノイド 人型であつてもそうでなくとも 全く問題ないという極めてウェルカムオープンな場所である。

加えてここには金銭的な概念などは元から存在しないのでオールフリー。

…であるにも関わらず、創造学校の生徒は年々減少していく一方だった。

確かに全ての願望を満たす理想郷の如き世界で、あえてこの幸福を手放してまで自らわざわざリスクの高い別世界を創造し、ましてやその世界に『浸透』したいと思うものは、良く言えば好奇心旺盛且つ向上心のある者。悪く言えば余程の変わり者や物好き、平たく言えば真正のバカであるというのがこの惑星の住民の殆どが暗黙の了解で認識していることであつた。

そのせいか、創造学校に在籍する者は、銀河連盟側からは大いに期待される未来宇宙のホープとしてVIP対応され、反対に改革を望まない現状維持派の住民側からは奇異な目で見られていた。

中でもとりわけ銀河連盟の注目を浴びているのが、新たな世界の礎となる世界観のシナリオを考え、創り出す『創世班^{チーム}』だった。

定と住

*

創造学校・創世班

「あーさつつぱり分かんねえ…」

聖地ザポンに程近い大陸『カラド』その南東のはずれにある丘陵地の80%を占める壮大な敷地面積を誇る『地球星立創造学校』その校舎の南館3F物理ルームで受講していた少年『源糸 定』（げんし さだむ アップデルタ）は、待ちかねていた講義終了の合図が聴こえたと同時に両腕をだらんと垂らし机に突っ伏しながら気力0%の声を発した。

「そう？すぐく分かり易かったじゃん」

定の隣の席から、帰り支度をしながらそう相槌を打つ少女の名は『十和乃 住』（とわの りぶ ダウンデルタ）

現在17歳で、同い年の定とは家も近い幼馴染みである。
得意分野は理数系。

因みにここでは名前の後に各人の性質をよく顕しているシンボルマークを付けるのが文化の一端となっている。勿論あくまで正式

名称を示す時のみであり、普段呼び合う時は省略されるが。（稀にシンボルネームで呼ぶ者もいる。）

「はあ？あんなの理解できるなんてお前絶対頭おかしいって！
…てか実はナノチップ埋め込んだロイドじゃねえ？」

と、定が信じられないという表情をして軽口を叩けば

「しつ失礼ねー！あんな基本中の基本すら理解できないあんたのノ
ーミソ君の方がヤバイんじゃないの！？」

パンツと机を強く叩きながら勢いよく席を立ち、憤慨し反論する住。

「んだと！？」

「このまま行くと、ステージアップは難しいかもねー。 アップ・
・・≫デルタ君！」

「ぐっ…！おーまーえなあ…！」

「何よー本当の事でしょう！」

図星ばかりグサグサ突かれた定は反論に詰まり、肩をプルプルと震わせ住を睨みつける。

「はいはい、お二人さん。
痴話喧嘩はそこまで!!」

エスカレートする二人を制止したこの呑気な声の主は『日下 涼（くさかりょうブラックダイヤ）』
定と住の共通の友人であり、頼りになる兄的存在の18歳。容姿端麗で所謂イケメンの部類に属するが、面倒見が良く温厚で、自然と平和と楽しいことをこよなく愛する爽やか男子である。因みに創世班のリーダー。

「「涼兄」」

声の方向へ顔を向けながらハモって返事する定と住。何だかんだで息はピッタリの二人である。

「これからメシでも食いに行かない？課題の話し合いも兼ねてさ」

定と住の間に入り、二人の肩をガッシリ抱きながらキラリと微笑む涼。

「いいですね！行きましょー」

「ナイスタイミング！俺もちょうど腹減ってたんすよー」

二つ返事で提案に乗る二人。

「じゃあ決まり 場所はいつものスペース・ラ・ポルトでいいかい？」

「ハイ！」

「それじゃあ悪いけど先に行つてくれるかな？僕は学長にこの資料渡してから行くから」

「わかりました」

「了解っす！また後で」

「うん、後でね。適当にやっていいから」

そう言い残し、涼は資料を抱えながら北館端の最上階にある学長室

へと向かって行った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2639ba/>

アダムとイヴの未来

2012年1月8日21時46分発行